

M キャンプ「水族館に泊まろう！」

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。また、水族館での飼育員体験や漁港での水揚げ見学を通して、地域の水産業を知るとともに多彩な職業観を育む。

○ 実施期間

令和3年12月26日（日）～12月27日（月）

○ 対象者・参加者数

小学4～6年生 29名／30名（人数／定員）

○ 活動プログラム

時刻	1日目（土）	時刻	2日目（日）
14：00	送迎バス（高知市内） 出発	6：00	起床・身支度
17：00	むろと廃校水族館 到着	6：30	朝食
	はじまりの会	7：00	体験⑥ 大敷網水揚げ見学
17：15	夕食	8：00	体験⑦ 水族館開館準備体験
17：45	体験① 水族館ガイド		体験⑧ 飼育員体験
	体験② イルミネーション見学	9：00	体験⑨ ウミガメ計測
	イルミネーション制作	11：00	昼食
19：45	体験③ イカ墨で年賀状作成	12：00	体験⑩ ウミガメ放流
	体験④ 水族館冒険ナイトツアー	12：15	おわりの会
21：30	宿泊準備	12：30	むろと廃校水族館 出発
22：00	体験⑤ 水族館でお泊り（就寝）	15：30	送迎バス（高知市内）到着

2. 活動の様子

< 1日目 >

水族館の閉館後に集合し、夕食からの開始となった。夕食後は、館長による水族館ガイドが行われた。その後は、次の日から点灯予定の年末年始イルミネーションの制作を班毎に行い、予定時間を超えても黙々と作業する姿がみられ、無事に点灯させることができた。

その後は、2チームに分かれ、コロナ禍でなかなか会えない人へイカ墨で年賀状を書いたり、冒険ナイトツアーを行った。参加者の中には年賀状を書いたことがない人もおり、日本の年賀状文化へふれる良い機会となった。ナイトツアーでは、最初に見た昼間の海洋生物の様子と夜の様子を見比べた。狭い場所に挟まって寝るウミガメの様子など日頃は見ることのできない貴重な発見をした。最後は、水槽のまわりに寝袋を敷いてウミガメや魚たちと一緒に就寝した。



<2日目>

夜中に目が覚めてウミガメや魚に驚いた参加者もいたようだ。朝は起きたら寝袋を撤収し、朝食にはサバ味噌の大きな漁師おにぎりを食べて2日目が始まった。おにぎりを食べながら漁の様子を聞き、水揚げのタイミングを見計らって漁港へ地元大敷網でとれた魚の水揚げ見学へと移動した。大迫力の水揚げを見ながら、水揚げされた魚の説明をもらった。

水族館に戻ってからは開館準備でエサを切って魚にあげたり、水槽や館内の掃除をしたりと飼育員体験を行った。水族館の日頃は見えない裏の仕事を体験できた。

その後はウミガメの甲羅をノギスを使って計測を行って、記念手ぬぐいに記録した。そして、最後は皆で砂浜から放流してお別れをした。

お昼ご飯は、朝に水揚げされたばかりの新鮮な魚の刺身を食べて、2日間の振り返りをして解散した。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・魚の特徴やエサの食べ方を知れた。
- ・普段できないことができてすごく楽しかった。
- ・イルミネーションが楽しかった。
- ・水族館に泊まる貴重な経験ができた。
- ・魚の詳しいことやいろいろなことを知れた。



○ 事業の成果

- ・コロナ禍、また年末の開催であったが、大変多くの応募があり、日頃は経験することのできない水族館に泊まるという体験活動の提供することができた。
- ・事業をとおして、水揚げ見学では、見るだけでなく、室戸ならではの敷網漁業についてや漁業に携わる職人との交流、水族館での飼育員体験などで多彩な職業観を育む環境づくりができた。
- ・班での活動を基本とし、様々なプログラムをとおして、1泊2日という短い時間でも班のメンバーと協力する姿勢がみられた。

○ 事業の課題

- ・水揚げ見学については、漁の状況によって時間が大きく前後するため、起床時間を早めるなどして朝食時間を十分に確保する必要があると感じた。
- ・就寝場所を選ぶ際に、ウミガメ水槽など人気の水槽周りで場所取りが生じたため改善が必要だと考える。
- ・大変多くの応募があったため、引き続き地域と連携しながらより多くの体験を提供する必要があると感じた。